

高畠高生の活躍

令和6年2月28日の山形新聞「若者の声」の欄に、3年次生沼部莉里さんと高橋遼太君の文章が掲載されました。

若者の声 高畠高

心のバリアフリーを意識

■3年 沼部莉里

最近気になっているのは「心のバリアフリー」という言葉です。福祉の問題を考える中で見かけました。

バリアフリーという言葉は聞いたことがありますが、心のバリアフリーという言葉は初めて知りました。それは、さまざまな心身の特性や考え方を持つ全ての人が、相互理解を深めるためコミュニケーション

を図り、支え合うことを意味します。

精神障害のある方に偏見

日々勉強し立派な大人に

■3年 高橋遼太

高校までの学びを終えた。小学校から思えば、算数が数学へ発展。社会の授業は世界史、日本史、地

理へと広がっていった。何事も基礎ができていなければ次に進めない。高校では、中学生の頃から思い続けていた職業に就くために公務員試験の勉強

を持った。かわいそうな存在だと思ったりしてないでしようか。私は高齢者の方や障害のある方を見かけると、何か手助けしてあげないと、かわいそうだと考えていました。

でも、私たち健常者が偏見を抱いたり、決め付けた

りしてしまえば、その方々の社会参加を妨げてしまうかもしれません。そこで必要なのはコミュニケーションであり、その方自身の考えをよく知ることが必要だと思えます。

障害があってもなくても、コミュニケーションを

を続けてきた。試験範囲は広く、早めの対策に加え、根性と努力が求められた。何とかそれに打ち勝ち、無事に合格することができた。就職試験に向けた勉強を通して、自分自身に負けないよう努力し続けることが大切だと感じた。

学生としての学びは終わったが、勉強は死ぬまで終わらないだろう。仕事に就いてからが本当の勉強になる。社会人としての在り方やマナーを学ぶなど、日々勉強していきたい。そうすることで立派な大人になり、恥じない生き方につながると思える。